

9・茨城県における文化財レスキュー活動

早川 泰弘 東京文化財研究所 保存修復科学センター 分析科学研究室長

茨城県から文化庁へ正式に被災文化財等の救援要請がなされたのは、平成23年7月11日である。その後、同年8月30日に茨城県教育庁から救援委員会にあててレスキュー対象リストが提出された。対象は下記の4件であり、このうち1、2.に関しては救援委員会の平成23年度活動報告書にレスキュー活動の内容の一部が記載されている。以下には、平成23年度活動報告書に記載されていない平成23年度のレスキュー活動と、平成24年度に行った茨城県内のレスキュー活動の内容および救援委員会の対応について報告する。4件ともに、救援委員会が目的とした一時レスキューの段階は終了したと判断でき、今後の安定収蔵・長期保存・本格修理に向けた検討が必要な段階にある。

1. 北茨城市平潟地区所在の土蔵内資料

北茨城市平潟地区に所在する土蔵・薬師如来堂等のレスキュー活動は、北茨城市教育委員会および茨城文化財・歴史資料・救済保全ネットワーク（以下、「茨城史料ネット」）が中心となり、平成23年9月に集中的に実施された。その概要は平成23年度活動報告書の中に記載されている。平成24年度には、救出した資料について茨城史料ネットが中心となり、目録の作成、記録写真の撮影、中性紙封筒への保管、中性紙文書箱への収納等の作業が断続的に実施された。救援委員会では、作業に際しての必要物資の提供等の支援を行った。今後、整理が終了した資料については順次所蔵者に返却する予定である。

2. 新治汲古館の所蔵資料

新治汲古館は筑西市所在の個人所有の資料館であるが、1万点に及ぶ資料が所蔵されていた。レスキュー活動は、筑西市教育委員会、桜川市教育委員会、茨城史料ネット、茨城大学等が中心となり、平成23年10月に集中的に実施された。その概要は平成23年度活動報告書の中に記載されている。救出した資料は桜川市の真壁伝承館および桜

川市立岩瀬西中学校に搬送され、平成24年度は継続的に整理・収納が実施された。平成24年7～10月には、真壁伝承館において約300点のレスキュー資料の展示・公開が行われた。

3. 大洗文化センター関連行政文書

大洗中央公民館地下で保管していた文化センター関連行政文書の水損に対し、平成23年7月に酸化プロピレン燻蒸が実施された。救援委員会では同年9月に現地調査を実施し、被災資料の状況、カビの発生状況を調査するとともに、クリーニング・乾燥処置等に関する助言を行った。この際に、カビの一部を採取して培養・同定を行い、その結果を同年9月に文書にて報告した。併せて、カビが発生した資料の取り扱いに関する注意喚起を行った。平成24年度も引き続き、資料の乾燥・整理が実施された。

4. 鹿嶋市龍蔵院の絵画・文書

鹿嶋市龍蔵院は旧長栖村の菩提寺で、鹿嶋市指定絵画を含む近世～近代絵画・文書等約300点が保管されていたが、津波により水損被災した。平成23年5月に救援委員会によるカビの調査・採取が行われ、さらに筑波大学により応急処置として簡易クリーニングおよび脱酸素処置が実施されている。同年11月から平成24年2月にかけて、救援委員会では文化財保存修復学会等の協力の下、国宝修理装演師連盟から技術者を複数回派遣してカビ払い・クリーニング等の作業を行うとともに、関東港業の協力により酸化プロピレン燻蒸を実施した。救援委員会が目的とした一時レスキューについてはこの段階で終了としたが、本格修理あるいは水浸した絵画の修復に関する研究的要素が高いと判断された絵画2幅に対して、平成24年10月に東文研は龍蔵院との間で受託調査研究契約を締結し、修復に関する調査研究を進めることとなった。調査研究期間は2か年を予定している。また、救援委員会では平成23年



鹿嶋市龍蔵院所蔵絵画のカビ払い
(平成 24 年 2 月 21 日)

5 月に龍蔵院の水損絵画から採取したカビ 6 試料の分離・
同定結果について、平成 24 年 8 月に文書にて報告した。